

ビジネスディベロップメント トレードミッション2020

地中海の東端に位置するイスラエルは、軍事技術を背景に、セキュリティの技術や基礎的な技術が得意なところと言われており、シリコンバレーやシアトルのスタートアップ企業も、イスラエルの基礎技術の上に起業しているものが多数あります。LINEなどのベースとなっているチャットの技術やUSBメモリーなどはイスラエルから発祥し発展したものであり、インテルのCPUもイスラエルから生まれています。

欧米のテレコム、半導体各社 (Intel, Qualcomm, Nvidia, DT, BT)などは4年程前からイスラエルで5G周辺テクノロジーに積極投資を行ってきました。これらのイノベーションはようやく導入に向けてのPOC (:概念実証) を済ませてコマースディプロイメントが始まるところです。これらは人工知能や次世代HPC、モビリティ、通信インフラ、次世代モバイルアプリケーションなど多岐に亘ります。

そこで今回、テレコムサービス協会関東支部では、イスラエル政府、イスラエルVCなどの協力を得て、新しい事業開拓のために「ビジネスディベロップメント トレードミッション」として、イスラエルを下記スケジュール等で視察しました。

<ミッション スケジュール>

2020年1月26日(日)21時・成田空港集合

1. 1月27日(月) (以降現地日付)

企業ミーティング・参加日本企業プレゼン、現地企業プレゼン

2. 1月28日(火)

企業訪問・Mellanox社、Intuition Robotics社

2B HUB、スタートアップ各社セッション

3. 1月29日(水)

サイバーテック・テルアビブ

起業家面談・One-on-one

4. 1月30日(木)

エルサレム旧市街、死海 訪問

5. 1月31日(金)

自由時間・帰途

2020年2月1日(土)19時45・成田空港着陸

<視察団 参加社>

・団長 一般社団法人テレコムサービス協会関東支部 会長 宮崎重則

・副団長 株式会社ミロク情報サービス 小川清

・参加社 株式会社アイ・オー・データ機器

京王観光株式会社

株式会社Dグロース

株式会社NEXTスタッフサービス

ヴーナス・プロジェクト株式会社

株式会社ミロク情報サービス

<協力>

・在日イスラエル大使館 経済部

・在イスラエル日本大使館

・イスラエル経済産業省、イスラエル貿易庁

・HERZOG FOX & NEEMAN 法律事務所

<special thanks to>

・トムサトウ

0. イスラエルのテルアビブ (Tel-Aviv, Israel)

イスラエルは人口約900万人、そのうち約40万人が人口第2位のテルアビブに住んでいます。テルアビブは比較的新しい経済都市で、政府機関は旧来の75万人都市・エルサレムに集中していますが、テルアビブからは車で2時間くらいの距離です。殊にテルアビブは、シリコンバレーやシアトルのように、基礎研究のような企業が集まり、インテルの研究所やマイクロソフトなどの施設が集まりつつあります。シアトルやシリコンバレーより運営コストが安く、研究所系が移って来ている要因となっているようです。

また、今回のミッションの直前には、米国・イラン間の政情不安が懸念されましたが、イスラエルの「軍事的」治安に影響はなさそうなこと。そして、今回訪問のテルアビブは、イスラエルの中でも軍事的治安に影響が出やすい、国境近辺、パレスチナ自治区、ガザ地区等とは、100km以上も離れているので問題無いとの判断により、視察は開催されました。因みに、テルアビブの街は、海外観光客も多く、「日常生活的な治安」も良く、普通に夜でも外出が可能であり、普段の生活には何も問題ありません。米国本土の各都市より安全と言えそうです。

1. 1月27日(月)・企業ミートアップ・参加日本企業プレゼン、現地企業プレゼン

1-0. 渡航～移動

2020年1月26日(日)夜9時、成田空港集合で、23時発のターキッシュエアラインズで出発。トルコのイスタンブールに朝5:45(以降現地時刻)に到着。乗り換えて、イスラエルのテルアビブ・ベングリオン空港には朝の9時着、と約17時間の旅程です。時差は日本が7時間先に進んでいて、乗り換えの前後で機内朝食を2回食べると到着することになります。空港から、現地でチャーターしてくれたミニバスで、ホテルへ向かいます。



電波は4G、3Gが街中では弱めですがどこでも通じます。建物に入ればほとんどがPWを打つだけの簡易Wi-Fiがあり、通信環境はいいようです。移動のミニバス内にもWi-Fiがあり、USB充電しながらワゴンの中でスマホを利用できました。(上図 天井、接続状況)

一方、現地のタクシーはUberもしくはGettというアプリで呼べます。ちなみにUberは個人の車、Gettはタクシー会社で、運転手もスマホで対応します。支払いもクレジットカード引落し。近くに居るのが比較的早く来てくれますが、チップのボタンを押せば更に対応がいいとか、運転手側も顧客の評価を付けるので、何度か利用するうちに呼んですぐに来る人と少し待たされる人が出たのはそのせいかな、という話になりました。

流しのタクシーは、チップを含む料金で事前に交渉する方式で、アプリ決済より少し高つくようです。その場合は現金でもドルはダメなようなのですが、現地通貨シケルはタクシーや小店舗などで使うのみなので、あまり多くは必要ありません。

1-1. 企業ミーティング・参加日本企業プレゼン、現地企業プレゼン

到着の現地は1月27日(月)朝で、ホテルで着替えたらすぐに出発。午後からは企業ミーティングと言われるセッションです。イスラエルで一番大きい法律事務所でブリーフィングを受け、現地貿易庁の幹部や法律事務所の国際間契約のスペシャリストなどから、イスラエル進出時の法律的課題などの説明を受けました。



その後、イスラエル政府関係者、スタートアップ、ベンチャーキャピタルを交え、日本勢、イスラエル勢の20社近くがピッチを行いました。冒頭、中村在イスラエル公使より、日本勢・イスラエル起業家へのビジネス促進に向けてのメッセージを頂きました。イスラエル政府からは経済省ディレクターのノア・ハイネマン氏より、イスラエルの経済とイノベーション環境について、そして二国間の貿易促進に関する話がありました。イスラエル貿易機構のカエル・アマタイ氏からは、スタートアップ環境とビジネスの進め方の話がありました。



日本からは、テレコムサービス協会・宮崎団長より、挨拶と日本での今後のテレコム業界動向についての説明があり、その後トムサトウ氏が、イスラエル向けに日本企業とのビジネス開発に関するプレゼンを行いました。そして、日本のメンバーより、それぞれの会社案内とどのようなイノベーションを探しに来たのか、そしてどのような形でビジネスをしたいかなどをプレゼンしました。



イスラエル勢からは、著名なベンチャーキャピタリストで\$500Mのファンドを運営するアロン・リフシッツ氏より挨拶があり、その後、サイバーセキュリティでハッキングツールやハードウェアを検知するセピオシステム、5Gで大量画像のコンテンツ配信を行うTEXEL社、5GでSDNを展開するEXAWAREよりプレゼンがありました。その後、ネットワークセッションが行われ、交流会となりました。

プレゼンは全て、ヘブライ語（現地公用語）ではなく英語で行われましたが、日本で英語プレゼンを行って一般ビジネスマンに通じる割合を鑑みても、日本は国際的に遅れていると言われても仕方がないという実感がありました。

TELESA 5G Israel Innovation Trade Mission Conference & Reception

参加者数 60名

協力:在イスラエル日本大使館、イスラエル経済産業省、イスラエル貿易庁、
イスラエル貿易機構、Herzog Fox & Neeman 法律事務所

プログラム

- 14:00 Registration & networking
- 14:30 Welcome to HFN by Gilad Majerowicz, Partner
- 14:32 Welcome by Japanese Embassy in Israeli, Deputy Chief of Mission, Kazuhiko Nakamura
- 14:34 Welcome by Ministry of Economy & Industry Noa Heinemann Director, Asia Pacific Foreign Trade Administration Ministry of Economy & Industry
- 14:36 Opening remark by Israel Export Institute Krael Amitai, Mobile Section Manager
- 14:38 Opening remark by Shigenori Miyazaki, Chairman, Kanto Chapter. Telecom Service Association of Japan
- 14:40 Presentation: Overview of 5G activities in Japan by Tom Sato (Organizer)

- 15:15- Pitch by Japanese delegation 5-10 Sessions
 - 15:15-15:25 IO Data
 - 15:25-15:35 MJS
 - 15:35-15:45 Next Staff
 - 15:45-15:55 Venus Project
 - 15:45-16:00 Keio Travel
- 16:00- Short Pitch Sessions by 5 Startups TBC
 - 16:02 Forward by Alon Lifshitz, Hanaco Venture Capital
 - 16:05 Pitch 1 Sepio Systems Bentsi Ben Atar CMO, Co-founder
 - 16:15 Pitch 2 TEXEL Amir Segev, CEO
 - 16:25 Pitch 3 EXAWARE Itzik Zion, CEO

- 17:00-18:30 Reception and Networking with food and drinks
by Gilad Majerowicz, Partner, Herzog Fox & Neeman

2.1月28日(火)・企業訪問・Mellanox社、Intuition Robotics社 2B HUB、スタートアップ各社セッション

2-1. 企業訪問・Mellanox社

現地企業2社を訪問しました。まずは、世界的なハード中心のセキュリティ企業である「Mellanox Corp」の本社を訪問。高速ルーティングなどの彼らの技術は、世界を席巻しているのと同時に、更に新たな領域に進出していることがわかります。また、5GやBigdata活用の流れを受けてEdgeスイッチなどに力を注いでいるようです。



2-2. 企業訪問・Intuition Robotics社

2社目は、「Intuition Robotics」というAIの会社でした。小さい企業ながら、AIに人間的な個性を持たせるという特徴を持つベンチャー企業です。活用形態はAIスピーカーでスタンダードですが、端末を含めて「人格」を増殖させる機能については、相当秀逸な感じがしました。今年6月頃に発売予定の日本のT社の新しい車に搭載されるとの事で、おそらく世界的な技術に発展していきだろうと予測されます。



2-3.2B HUB、スタートアップ各社セッション

15時過ぎからは、「2B HUB」というインキュベーションセンターを訪問し、5社のベンチャー企業のプレゼンを受けました。日本ではあまり話題にならないビジネス向け高セキュリティスマホなどもあり、世界との違いをそこここで感じます。イスラエルのベンチャーは、しっかりとロードマップを持ち、国際的展開に意識集中しているように見えました。投資家もそれを全面支援しているようで、皆、世界を目指していると感じさせられます。



3.1月29日(水)・サイバーテック・テルアビブ、起業家面談・One-on-one

3-1. Cybertech Tel-Aviv 2020

現地3日目午前は「CYBER TECH Tel-Aviv」を見学。サイバーテック・グローバルは世界各地で行われる展示会です。大きな展示場では日本でも多く見かけるメーカーやセキュリティ系の企業がブースを展開しています。シマンテックやノートンなども大きなブースで展示をしていました。



CYBER TECH Tel-Avivの詳細は、在日イスラエル大使館経済部のページでご確認下さい。
<https://israel-keizai.org/events/event/cyber%e2%80%8b%e2%80%8bttech-tel-aviv-2020/>

3-2. 起業家面談・One-on-one

午後からは、「One on One」で、通訳付きで、面談希望会社との個別ミーティングでした。



3-3. 損保ホールディングス 企業ミートアップ会

夜は損保ホールディングスのイスラエル事務所で行われた、企業ミートアップ会へ参加しました。同社は、今はイスラエルで一番高いビルのプロアに事務所を構えています。すでに、健康管理系のシステムで大きな成果を上げているという話でしたが、イスラエルの先端技術に着目し、投資や提携も展開しているとのことでした。ここでも数社のプレゼンが行われ、日本人も多く参加をしていました。

4. 1月30日(木)・エルサレム旧市街、死海 訪問

4-0. イスラエルを知る

初日の、法律事務所で受けた現地貿易庁の幹部や法律事務所の国際間契約のスペシャリストなどの説明にあったように、イスラエルとのビジネスを進めるにはイスラエルの特徴を知ることが重要です。郷に入っては、というわけで、宗教色や政治色、観光色を多く伴うイスラエルに関する教養を育てるため、大使館が依頼してくれた政府公認の案内人を伴って、エルサレム旧市街と死海を訪問しました。

4-1. エルサレム旧市街

まずエルサレムへ。イスラエルの「首都」は、経済的にはテルアビブですが、政治的・歴史的にはエルサレム。ネタニヤフ首相の公邸前を經由して旧市街地へ。わずか1km四方足らずの旧市街と言われる町に、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教、アルメニア人地区と分かれて住んでいて、それぞれが聖地としています。政情不安でもテルアビブは安全だと言われながらも、当日は、イスラムのゾーンは案内できない、較べるとリスクがある、とのことでした。キリストの墓と言われる場所にある聖墳墓教会や、ユダヤゾーンにある聖地と言われる「嘆きの壁」などを見て回り、解説を受けました。通訳を担ってくれた現地の方がたまたま宗教的に中立な方だったので、客観的な表現で聞くことが出来て効果的でした。

4つに区域は別れているものの、普通に区域を渡って行き来はしているようで、生活習慣と宗教が全く異なるだけで、土産物屋が多い雑然とした街並みに厳格に習慣を守る人々が分かれて住んでいるということのようでした。

4-2. 死海

死海は標高マイナス240メートルと地表で最も低いところにあります。対岸はヨルダン。一般的海水と比較し易いので塩分濃度が35度(通常の海の10倍)と謳われていますが、濃いのは塩分だけでなく、ミネラル全般に濃度が高く、泥の美肌効果をはじめとした「湯治場」に近い観光地です。関連したコスメティック産業も、日本でも女性なら多くが社名を知るくらい有名なものでした。

5. 1月31日(金)・自由時間・帰途

最終日は、出発までのフリータイムとなりました。政府公認の案内人に“土産が揃っている”と言われた近くのショッピングモールは、高級ブランド等が並ぶばかりで、イスラエル土産というより「高級リゾート土産」の体になりそうで、観光地としての一面を確認させられます。

一方、踵を返して向かった市中のマーケットは、さながらテルアビブの“アメ横”でした。

帰りもイスタンブール経由、ターキッシュエアラインズで成田へ。全員無事帰着となりました。

2020年2月1日(土) 19時45・成田空港着陸

以上

